

飛騨 輝山/猫岳/金山岩 山スキー

木下

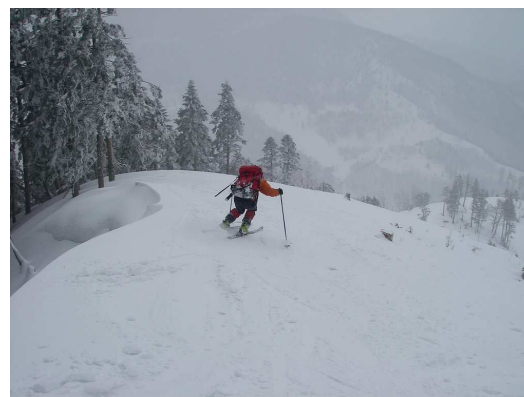
【日時】 2007年2月10日(土)～13日(月)

【メンバー】 L木下、田村、田辺、中村

雪がない！珍しく早くからメンバーが決まっていたこの3連休、ルート決定に悩む。アイデアはいろいろ出たが、最後がリーダーの強権で「平湯周辺」の山スキールートに決定した。最近話題のエリアだが、まだ足を踏み入っていない山域なので日帰りルート3本にして偵察方々と計画した。(ベースの平湯温泉が魅力的であったのはいうまでもない。)

2/10 輝山 小雪～晴

前夜の到着が遅くなったので、今日はショートルートの輝山にする。乗鞍スカイライン入口に車をデポして出発。すでに先行パーティのトレースがある。雑誌やインターネットの情報はすごいものだ(もっとも自分たちもそうなのだが)。雪は申し訳ない程度に新雪が乗っている状況で、尾根の取り付きは地肌が出ている。先行パーティのトレースを辿って何とか尾根上に上がる。輝山南尾根は伐採跡で雪が積もれば楽しめそうであるが、今日のコンディションは所々笹が出てきている状態。ラッセルもないので順調に詰めると上部は針葉樹林の森となり雰囲気が良い。頂上には大人数のパーティが到着しており賑やかだ。時間も早いので雪質のよさそうな北側の尾根に滑り込んでみる。確かに雪質は良かったが樹間が狭く快適ではない。100mほどで見切りをつけて頂上に戻る。往路を滑るが、アイスバーの上に少しだけ新雪がのった状態ではある。恵まれないコンディションのなかでも楽しんでいる面々であった。トレースの付いた車道を一気に飛ばして国道に到着。さて温泉へ！「平湯の森」の湯船で手足を伸ばして明日への鋭気を養う。界限の某所にテント張って今回のベースハウスとする。



2/11 猫岳 雪

夜半より冬型となり雪が本格的に降り始める、パウダーを楽しめる予感。当初、四ッ岳を予定していたがピークを狙える確率の高い猫岳に変更する。

4時起床で準備する、明るくなってきた頃、乗鞍スカイラインの陸橋の下に車をデポして出発。

20cmほどの新雪、車道を進みカーブはショートカットしていく。平湯峠には出ずに地図上の「乗鞍スカイライン」の「乗」の付近出て、標高1770mより大崩山より伸びる尾根に取り付く。昨日と違い気温が下がり氷点下10℃ほど、雪も激しくなってきた。尾根は細い岳樺から深い針葉樹林に変わる、ラッセルもひざを越すようになり中村君のパワーが炸裂、パーティをリードしていく。2150m付近で平坦となり、ほどなく車道に出ると「猫の小屋」だ。コンクリート造りの窓もドアも開けっぴなしの質素な小屋だが中に入れば心なしか暖かい、一息つく。

ルートは大崩山へと取る、車道をかすめ深い針葉樹の森のラッセルが続く。標高2400m付近より樹林が薄くなり森林限界が近い、風も弱く「ピークを望めそうだ」、と思ったのだが。大崩山からは樹林がなく、視界も20mほどに落ち、コンパスでの計器歩行となる。標高2500mの平坦地を進み、猫岳の



取付きで方向を変えるが、ここで田村さんに大きなデポ旗をつけてもらう。猫岳の斜面に入ったとたん、風が急速に強くなりメンバーの歩行スピードが落ち、雪面もクラストと変わる。あと50mほどかと思われるがピークを断念して下山することにする。



ホワイトアウトの中、慎重にコンパスを見てデポ旗まで戻り、再セットして大崩山を目指す、往路のトレースはすでにはない。しばらく戻ると「うそ」のように風がなくなった、風は頂上周辺のものなのだろう。大崩山の山稜に後続パーティが現われ、エールを交わす。

大崩山直下でシールをはずし、待望の滑降だ。久しぶりに本当に楽しいパウダーを満喫した。胸まで吹き上がる雪、独特な浮遊

感、途中樹間の濃いところもあったが思ったほど気にならず、歓喜の声がこだまする。再び、猫の小屋で一服、満ち足りた笑顔を交わした。

猫の小屋からの尾根はもう少し狭く樹林が濃いところがある、樹林を避けようと少し傾斜のきつい沢筋を滑るとスラフ状の表層雪崩がでて慎重に尾根筋に戻った。車道に出る直前は尾根からはずれ、ゆるい沢状に入るが、ここは細い岳樺林です



ピードを出して樹間を縫う、爽快だ。車道はすでにトレースがなくなっており、軽いラッセルである。適当にショートカットして飛ばしていく。輝山取付きからはトレースがあり、走るスキーに乗って国道へ。約9時間行動の充実した1日であった。

今日も「平湯の森」へ、冷えた体を温めれば極楽・極楽、ベースハウスで本日のパウダーに乾杯！

2/12 金山岩 雪のち晴

今日は冬型も緩み展望が望めると期待してのルートだ。中村君の知り合いのTさん夫妻と松本勤労者山岳会の方4名と同行する。山スキー4名、テレマーク4名と半々の構成。



平湯スキー場はリフト2本の小さなスキー場、300円のリフト券1枚で標高1770m(約400m)まで運んでくれるので効率が良い、ただ駐車料金も取られず少し悪みみたいな気がする。リフト降り場で「早目に降りてくるよう」とやさしく声をかけられ出発。標高差100m程はかつてのスキー場を登り、尾根筋に入る。昨日よりも樹林が濃い。尾根は上部に行くと二重山稜状になっており、視界がないとややわかりにくい形状だ。天候の回復が遅いようで、雪が舞っている。標高2400m付近から森林限界に差し掛かると視界が悪くなる、少し硬い雪面になると稜線に到着、視界のない頂上へ行っても仕方がないので、少し降りてシールをはずす。引続き雪質は申し分ないのだが、樹林が濃く自由なスキーイングを楽しむというよりは「いかに樹林をすり抜けるのか」、ルート取りとスキーの操作技術を楽しむといった感じでしょうか。でも部分的には針葉樹林帯のパウダーは十分楽しく、皆それなりに楽しんでいた。

途中より青空が見え始める、雪の山とのコントラストは美しい、樹間より穂高・岳沢を望んだ。途中P1921はシールをつけて登り返す。ゲレンデトップに付く頃にはアカンダナ山、大崩山や四ッ岳が見え始め、辺りのロケーションも確認できた。スキー場跡の樹林のない斜面にそれぞれの自由なシュプールを残して、今回最後の滑りを味わいながらゲレンデを下った。本日もまた「平湯の森」の湯船へ、平湯三昧の3日間でした。

雪がなかったらどうしようかと思っていたのでリーダーとしては内心スキーができて「ホッ」した今回でした。でも次はどうする！？

【行程】

- 2/10 国道(9:20)－輝山(11:45-12:10)－北尾根滑る－輝山(12:45)－国道(13:50)
- 2/11 国道(6:30)－車道～尾根入口(8:30)－猫の小屋(10:20-40)－大崩山(12:00)－猫岳直下(12:20)－大崩山直下(13:20)－猫の小屋(13:50-14:10)－国道(15:30)
- 2/12 平湯温泉スキー場トップ(8:35)－金山岳の稜線(11:45)－P1921(13:50)－ゲレンデトップ(14:10)－平湯温泉スキー場(14:30)

【地図】乗鞍岳 焼岳